

2014

広報 みなみいず

4

No.526



三浜小学校 最後の卒業式
いつまでも忘れないで！

～三浜小学校最後の卒業生～

町議会 3 月定例会



施政方針(要旨)

現在、わが国を取り巻く環境は、少子高齢化と人口減少及び、産業構造の変化並びに地球規模での環境問題、高度情報化の進展及び経済等のグローバル化など、不安定要素を包含しつつ、急激な変化を遂げています。本町においても、少子化に伴う人口減少と高齢化社会への変化や、インターネット等を媒介とした高度情報化などが急速に進展し、住民ニーズも複雑・高度化しています。

さらに、巨大地震・津波に対する静岡県の第4次地震被害想定への早急な防災・減災対策が求められています。

このような行政課題に対応するために、絶えず情報収集のアンテナを高く保ちつつ、住民ニーズの把握に努めるなど、開かれた町政の推進はもちろんのこと、住民の負託に応える職員の資質向上や気概の醸成にも努めてまいります。

また、町政の基盤をなす財政状況につきましては、本町は依存財源比率が高く、国等の動向に左右されやすい状況にあります。いかなる事態にも対応できるよう財政調整基金等の充実により、足腰の強いまちづくりを進め、住民の安全・安心を担保する町政運営に努めることが肝要であると考えております。

そのような中で、現在、平成22年3月に策定しました第5次南伊豆町総合計画に基づき、町の将来像であります「次世代につなぐ光と水と緑

に輝く南伊豆町～ひとにやさしく自然にやさしく 未来につなぐまちづくり」を推進していくため、職員一丸となって取り組んでいるところであります。

この取組をさらに一層前進させるために、私は「21世紀、わたしたちのすむまち、あなたとつくるまち」を基本理念に掲げ、町民参加型町政を強力に推進するために、「町民の町民による町民のための町政」を行政手法として、さらに、これらのことを具現化するために「いつでもどこでもミニ集会」等を開催することにより、町民の皆様の意見を集約することを全力で行ってまいります。この基本理念と行政手法により

- 1 人や企業に選ばれるまち
- 2 人々が住みたくなるまち
- 3 大切な人に住んでほしいまち
- 4 情報発信し続けることができるまち
- 5 町民の皆様(あなた)と共に協働して造るまち
- 6 町民の皆様(あなた)も自治体職員も新たな挑戦をする人材を育てていくまち

このようなまちづくりを推進したいと考えております。

具体的な施策といたしましては

1 石廊崎ジャングルパーク跡地等の観光開発

9月24日、売買契約の完了後、自然を生かした観光のメッカとしての新生石廊崎の開発計画を策定するべく、本年2月11日までに4回のワークショップを開催しました。

今後、ワークショップを継続し

ていながら、参観灯台、ゆうすげ公園、愛逢岬、池之原等石廊崎の広域的な利用計画を検討していただくとともに、パブリックコメント等町内外から幅広いご意見、ご提言をいただきながら利用計画を策定してまいります。

更に、今後、千葉大学園芸研究科との域学連携を視野に、町政の運営をしていくことを考えております。

2 杉並区の特別養護老人ホームの建設

都市部の高齢者対策のため、厚生労働省が主導し「都市部の高齢者対策に関する検討会」を立ち上げ、杉並区が南伊豆町に整備を検討している特別養護老人ホーム問題についても検討しました。

概ね、杉並区と南伊豆町及び静岡県が進める特養整備については容認の方向であります。

3 地熱資源の活用＝再生可能エネルギー

当町では、平成22年度「みどりの分権改革」調査事業、平成23年度から24年度にかけて、環境省の「温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究」の調査結果をふまえて、今後の方向性として、JOGMECの「地熱資源開発調査事業費助成金交付事業」及び資源エネルギー庁の「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」制度を活用して、本町の人口減少や少子高齢化対策として、農林水産業、観光業等、新たな産業や雇用の創出など、地熱資源を生かしたまちづくりを提案いたしました。

町民の皆様からは、賛意を示す御意見をいただきましたが、温泉への影響を危惧した否定的な御意見もありました。地熱は石油やシェールガス等と同じ大切なエネルギー資源であり、南伊豆町の宝と言っても過言ではないと思います。

九州大学名誉教授・理学博士・地熱情報研究所代表の江原幸雄氏の著書には、「終戦直前の1944年には、静岡県賀茂郡南中村で、九州帝国大学の山口修一博士、小田二三男博士が地熱研究のため掘削を計画しましたが、掘削機械を軍に接収され、実

験は行われなかったとの記録があります。」と記載されていました。

昔から、南伊豆町は地熱利用の先進地であることを示すものです。

今後は、地熱資源を生かした地域活性化策における課題等や問題点を十分検討しながら、熱電併給等を中心にしたスマートコミュニティ・スマートタウンの建設を目指して町民の皆様の御理解を得るべく、特に温泉への影響に関する説明会等の開催を計画するなど、町民の皆様との対話を続けてまいりたいと考えております。

4 ワークステイ＝夢を語りあうことのできる町

団塊世代が75歳に到達する2025年問題をはじめとして、人口減少社会・少子高齢化社会が現在より社会的に深刻な問題として到来する20年、30年後、さらに100年、1000年後の未来を考えた持続可能な社会を構築することが必要であると考えております。ワークステイは都市部のアクティブシニアに一定期間、南伊豆町に移住していただく構想です。

そのような方法で南伊豆町の居住者を増やす施策であり、いずれ町民の皆様の理解を得ながらワークタウン・プラチナタウンを建設していきたいと考えております。

5 観光振興

2月の菜の花結婚式・夜桜マラソン、3月の夜桜流れ星や5月のつつじ祭り、6月・9月・11月のオープンウォータースイムレース、7月・11月の参観灯台、10月の伊勢海老まつりの期間中の貸切団体列車「伊勢海老号」等色々なイベントを繋ぎ観光の活性化に努めてまいります。

6 防災対策

防災訓練や備蓄品調達をしながら、防災・減災意識の高揚と現状に即した地域防災計画の策定を推進してまいります。

7 健康福祉センターの建設

高齢化社会のなかで健康福祉センターの必要性は論を待ちません。公約でもあり、任期中に建設する決意です。

町民の皆様とワークショップ等を

通じ議論しながら、使いやすい健康福祉センターを建設いたします。

8 その他

1月16日には防災・医療・伊豆縦貫道へのアクセス等命の道としての役割のある一條・稲梓線道路建設期成同盟会を設立しました。

今後、国や県への陳情活動等を行う早期事業開始にこぎつけるよう鋭意、努力いたします。

また、鳥獣被害対策、里山の整備等の政策課題の解決に真摯に取り組み、町の活性化に努めてまいる考えです。

予算編成方針

政府は昨年12月24日の閣議において、経済再生、デフレ脱却と財政健全化の両立を目指すとともに、社会保障、税一体改革の実現に向けた総額95兆円を超える平成26年度予算を閣議決定しました。

これに、消費税増税に伴う需要の反動減を緩和するための平成25年度補正予算5兆4,654億円を加えた予算規模は、101兆円を超えるものとなりました。

また、静岡県は平成26年度予算案においては、「富国徳の理想郷“ふじのくに”づくりの総仕上げを掲げ、総合計画の新しい基本計画を着実に推進する」と発表しております。

同予算案は、地震・津波対策、雇用・経済対策の機動的な実施、少子化対策の充実など8項目では、重点的に施策・事業を展開することとし、2年連続増となる平成26年度一般会計の予算規模は1兆1,802億円で、前年度当初比3.6%の増となっております。

このような状況下、本町の財政状況は、主要産業である観光業等の不振が続く、税収の伸びが期待できません。加えて、歳入の7割近くを依存財源で占める本町は、補助金などの制度改正等の影響を受けやすい体質となっており、財政状況は依然として厳しいことに変わりありません。

このため、事業量や町債発行の平

準化を図りつつも、これまで以上に、国・県の動向に十分留意し、情報収集に努めるとともに、将来を見据えた財政運営が求められます。一般会計の歳入では、一部の交付金及び地方交付税に若干の減少はありますが、町税の微増に加え地方消費税交付金の増により、全体では前年度並みに確保できるものと見込んでおります。

しかし、特別会計繰出金や増加を続ける社会保障費等による財源不足を補うため、財政調整基金から2億1,833万4,000円の繰入れを行うとともに、道路改良等の普通建設事業に充当する町債の総額は2億4,250万円に上っております。

そのような中、自主財源である町税の確保は最重要課題であることから、コンビニ収納などにより一層の徴収強化に努めてまいる考えであります。

平成26年度の予算編成にあたりましては、第5次南伊豆町総合計画の基本理念及び将来像を具現化すべく、

- 1 安心・元気・温かさがあふれるまちづくり
- 2 優美な自然を生かした観光と交流のまちづくり
- 3 地域・自然の恩恵を生かしたまちづくり
- 4 地域を担う人づくりと町の歴史・文化を継承するまちづくり
- 5 人、町、自然が共生する快適でぬくもりのあるまちづくり

の5つの基本目標と

「自らが創り、守る南伊豆の未来」の共通目標

以上、6項目の重点目標を掲げて予算編成を行いました。

さらに、石廊崎の再生と健康福祉センターの建設なども進めたいと考え、石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定審議会委員報酬及び健康福祉センター建設検討委員会報酬などを計上いたしました。

平成26年度の一般会計、11特別会計及び水道事業会計の予算総額は、前年度対比3.7%減の79億3,639万円となりました。

行政報告(要旨)

1 石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画

町では、石廊崎ジャングルパーク跡地の利用計画を策定するため、毎月ワークショップを開催し、本年3月末までには基本構想案として提案をいただきたいと考えております。

そのような中、千葉大学園芸学研究科と地域・町が連携して地域の活性化を図ることを目的として、域学連携に関する相互協力協定を締結するよう準備を進めております。

今後、ワークショップで御提案いただいた利用計画の基本構想案を基に、域学連携により新生石廊崎の構築に向けて利用計画を策定してまいりたいと考えております。



ワークショップの風景

2 地熱資源の活用

町では、これまで経済産業省の「地熱資源開発調査事業費助成金交付事業」及び「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」制度を活用して、人口減少や少子高齢化対策として、地熱資源を活用して農林水産業、観光業等新たな産業や雇用の創出を図るまちづくりを提案し、町民の皆様には報告会や座談会を開催してまいりました。

本年1月9日に「地熱資源活用

によるまちづくり勉強会」を役場湯けむりホールで開催いたしました。

参加者からは、人口減少による将来への不安の声、周辺温泉への影響を危惧する御意見、温泉の一元化の可能性に関する御質問、地熱資源を町民の財産として利活用すべきとの御意見などがありました。

事業推進のためには南伊豆町温泉組合の御理解が不可欠であることから、今後は、経済産業省の補助金申請に向けて準備を進めつつ、南伊豆町温泉組合員の皆様に御理解を得られるよう尽力してまいりたいと考えます。

3 一條稲梓線道路建設促進期成同盟会設立

本年1月16日、休暇村南伊豆において、会員の全会一致で一線稲梓線道路建設促進期成同盟会が設立されたことを報告いたします。

「伊豆縦貫道」にアクセスできる緊急支援・援助のための「道」としての活用はもとより、観光客誘致にも大きな役割を果たすことも期待される大事な「道」であるとも考えております。

今後は住民の皆様、関係団体の皆様に賛同・御協力をいただき、会を大きくしながら、この期成同盟会を盛り上げ、道路建設が1日も早く事業化できるように努力してまいります。

4 防災対策

(1) 湊地区津波避難タワー

本年2月26日に、湊地区津波避難タワーの完成検査を実施する予定です。この津波避難タワーは、南海トラフ巨大地震に伴い発生する大津波を想定し、高さ12m、1,000

人の収容ができる施設です。

今後も、津波に対する恐怖を払拭する安全・安心な施設として、町民の皆様には普段から慣れ親しんでいただき、防災訓練等での活用をお願いいたします。

(2) 平成25年度事業実績

静岡県第4次地震被害想定に伴う地域防災計画の見直しや、静岡県との共同利用による移動系防災行政無線のデジタル化整備を図るとともに、孤立予想集落9地区への衛星携帯電話の配備を実施し、昨年度と合わせ、町内17の孤立予想集落に配備が完了いたしました。

ライフライン対策として、上水道施設の手石中継ポンプ場非常用自家発電機整備、継続実施している備蓄食料11,000食及び非常用飲料水として2リットルペットボトル11,000本を新たに購入いたしました。このほか、10地区の自主防災会が避難地・避難路整備、資機材整備を図り、1件の津波避難ビル協定事業者が津波避難ビル機能整備等事業費補助金を活用し、転落防止のための手摺の嵩上等の機能整備を図りました。



完成した津波避難タワー

5 イベントの開催状況

(1) 第16回みなみの桜と菜の花まつり

「第16回みなみの桜と菜の花まつり」が、本年も2月5日から3月10日までの間、道の駅「下賀茂

温泉湯の花」をメイン会場に開催されております。

2月9日には菜の花結婚式が下田高校吹奏楽部の奏でるメロデーにのせ執り行われました。

今回の新郎新婦は、南伊豆町在住の井上様ご夫妻で、皆様に祝福されながら結婚式が挙げられたことを大変喜んでおられました。

さらに、昨年実施いたしました「夜桜流れ星」は、昨年より2日間延長した7日間開催とし、あわせて「夜桜流れ星見学ツアー」と銘打った宿泊商品を旅行代理店に依頼し、宿泊者の増大に努めています。

2回目となります台湾エージェントを招聘したファムトリップ(現地に招いて下見を目的とする旅行)を3月4日に開催し、海外からの誘客にも努めてまいります。

(2) 南伊豆・下賀茂温泉夜桜マラソン

本年2月22日、町営温泉銀の湯会館をスタート・ゴールに、青野川河川敷道路において、第1回南伊豆・下賀茂温泉夜桜マラソンが開催されました。

当日は、関東圏を中心に450人の選手が、5km、10km、20kmの各コースにエントリーをしていただき、元気に青野川の特設コースを駆け抜けました。



夜桜を楽しみながら走る参加者ら

6 観光客入込状況

宿泊施設につきましては、民宿宿泊者数が昨年度とほぼ同数の宿

観光施設等の入込状況（4月～12月）

区 分	平成25年(人)	平成24年(人)	前年度比(%)
宿 泊 施 設	160,942	166,885	96.44
観 光 施 設	105,606	101,242	104.31
温 泉 施 設	82,040	80,324	102.14
合 計	348,588	348,451	100.04

泊数でありましたが、旅館・ホテルにおきましては、昭和初期から営業しておりました老舗旅館が11月から休館状態に入り、現在も営業が再開できない状態にあり、宿泊客数が減少したものと推定しております。

7 三浜小学校統合

三浜小学校と南中小学校の統合につきましては、本年度9月定例会におきまして、「南伊豆町立小、中学校及び幼稚園設置条例」の一部改正を行い、本年1月10日に、静岡県教育委員会に対し、平成26年3月31日をもって三浜小学校を廃止する旨の届出を行い、書類上の手続きは完了したところであります。

閉校に向けて、閉校記念誌を約500部作成し、地元地域、関係者への配布を予定しているほか、3月28日には閉校記念式典を行うことを予定しております。

なお、三浜小学校の跡地につきましては、庁内の検討委員会を中心に引き続き検討してまいります。グラウンド及び屋内運動場につきましては、これまで同様に社会体育施設として貸し出しを行っていくこととしております。

8 マスコットキャラクター「いろう男爵」

町では、このたび「いろう男爵」を南伊豆町の宣伝部長に任命しました。

「いろう男爵」は、職員が作成し、庁舎内に配置していたところ、来庁者から好評価をいただいていたものであります。

そのような中、長年の懸案事項であった岩崎産業株式会社と町との訴訟が決着し、石廊崎の新生に向けて、ジャングルパーク跡地の利用計画を策定するため、ワークショップ等により町民の皆様が積極的に町政に参加いただいている時期において、「いろう男爵」は応援キャラクターとして最適であると判断しました。

今後は、町でも様々な場面で登場させますが、何より町民の皆様に積極的に御活用いただき、町の活性化に貢献できるよう尽力してまいりますので、町民や議員の皆様方の御支援、御協力をお願いいたします。



9 地域おこし協力隊

「ふじのくに暮らし推進隊」として、静岡県から2人の隊員が、平成23年1月16日から平成25年3月31日までの任期により、本町に派遣され、南上地区を活動拠点として、地域の維持、強化を図ることを目的として、様々な地域活動

を実践してまいりました。

任期満了後に1人の隊員は帰郷しましたが、もう1人の隊員は、本年度末まで南伊豆町の地域おこし協力隊員として活動を継続してまいりました。

隊員のこれまでの活動は、町の移住セミナーへの参加協力、南上新聞・ミナミイズムの発行、農林漁家民宿の開設支援、大豆プロジェクトの創設、道路や休耕地の草刈り、各区の自主行事への参加等により地域の維持、強化を図ってまいりました。

隊員導入の評価につきましては、地域の皆様の御判断にもよります

が、町といたしましては、南上地区における地域の維持、強化、活性化のきっかけの一つにはなったと考えております。

町では、平成26年度は三浜地区を拠点として、観光資源の活用やPR及び誘客活動を中心に、同地区の活性化を図るため、新たに2人を地域おこし協力隊員として委嘱したいと考えております。

10 無医地区への取組

平成23年3月に策定された静岡県第11次へき地保健医療計画では、南伊豆町全域を「へき地」に指定

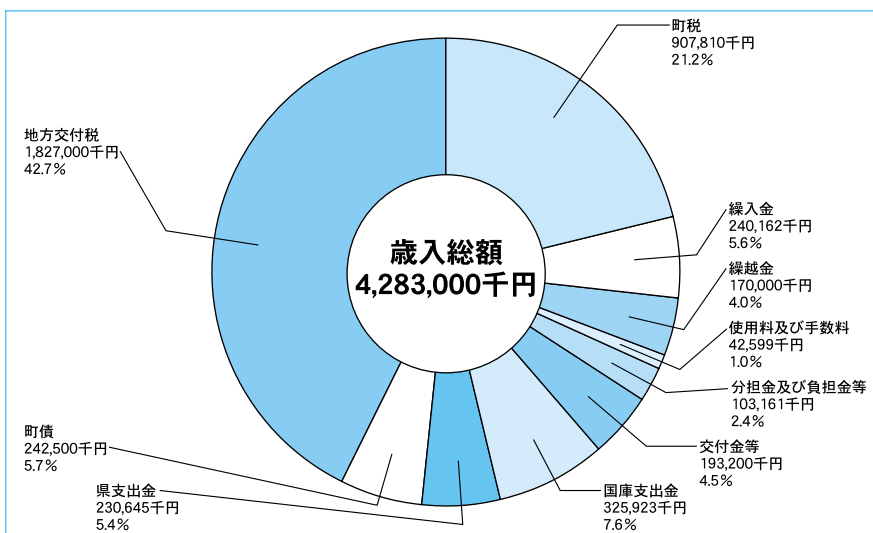
し、伊浜・天神原地区を「無医地区」として指定しております。

町でも独自に「無医地区」の医療確保を模索してまいりましたが、今般、伊豆今井浜病院の御理解、御協力によりまして、伊浜・天神原地区での巡回診療室を開設する運びとなりました。これは、本年4月から毎月1回、医師・看護師が指定地区に出向き、公民館等施設を活用し診療業務を実施するものです。

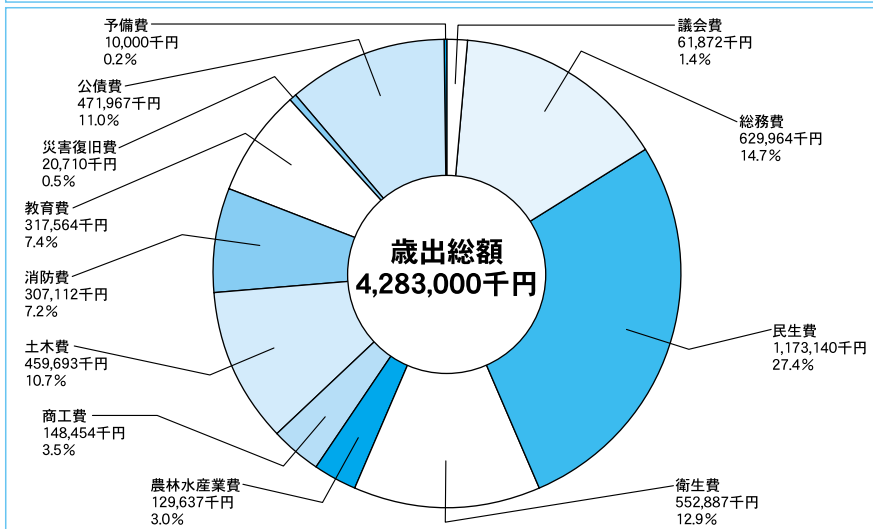
伊豆今井浜病院の御厚意に感謝の意を表するとともに、今後も「へき地」医療事業の充実に努めてまいります。

平成26年度 一般会計予算

〔歳入〕



〔歳出〕



国保からの大切なお知らせ！

平成26年 4 月から70歳以上75歳未満の方が 病院等にかかるときの自己負担割合について

70歳以上75歳未満の方が病院等にかかったときに支払う医療費の自己負担割合は、本来 2 割負担でしたが、国の特例措置により 1 割に凍結されてきました。これが平成26年 4 月から、新たに70歳になる方から順に 2 割負担に戻されます。新たに70歳になる方は、69歳までの 3 割負担から 2 割負担になり、既に70歳以上で、1 割負担であった方はそのまま継続されるため、今回の変更で個人の負担が増えることはありません。

具体的に・・・

平成26年 4 月以降に70歳になった方の自己負担割合の変化

(誕生日が昭和19年 4 月 2 日以降の方が該当します。)

69歳までは **3 割負担** ですが、70歳の誕生日の翌月から **2 割負担** になります。

※ 1 日生まれの方は誕生月から適用されます。

※ 現役並み所得者は 3 割負担です。

平成26年 3 月以前に70歳になった方の自己負担割合

(誕生日が昭和14年 4 月 2 日～昭和19年 4 月 1 日の方が該当します。)

これまでどおり **1 割負担** です。

※ 現役並み所得者は 3 割負担です。



となります。

70歳以上75歳未満の方には、所得などに応じて自己負担割合が記載された「国民健康保険高齢受給者証」が交付されています。病院等にかかる時は保険証と併せて提示してください。

なお、4 月以降に70歳になる方の高齢受給者証については、誕生月の中頃に郵送しますので、翌月から使用してください。

国民健康保険の異動を忘れずに

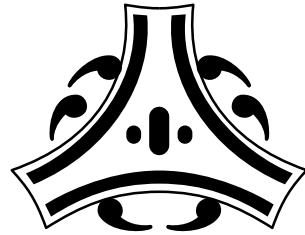
就職をして会社などの健康保険に加入される方は、国民健康保険を抜ける手続きが必要になります。手続きには、国保の保険証と新しく加入した健康保険の保険証または加入証明書が必要です。ご持参のうえ役場町民課 2 番の窓口までお越しください。

なお、手続きをしないと、国民健康保険税が正しく課税されないことや新しい健康保険に加入後、国民健康保険の保険証を使用して病院等を受診した場合国民健康保険で給付した金額を返還してもらうことになりますので、手続きはお忘れなくお願いします。

問合せ 健康福祉課 国民健康保険係 ☎ 6 2 - 6 2 3 3

ありがとう！三浜小学校

～48年の歴史に幕～



三浜小学校は、平成26年3月31日をもって閉校し、南中小学校に統合しました。

「我は海の子 三浜の子」 美しい自然と地域の方々に支えられ、多くの子供たちの成長を見届けた三浜小学校ですが、児童の減少により、その歴史の幕を閉じました。

子どもたちを暖かく見守ってくださいました方々にあらためて感謝申し上げます。

三浜小学校校歌

作詞・作曲 高橋 清

一 みどり風吹く 明山の
輝く雲に 希望のせ
理想の明日を 創る子は
強く正しく すこやかに
なかよく学ぶ 三浜の子

二 白い学舎 浜木綿の
豊かにかおる 丘の上
文化の花を 咲かす子は
清くやさしく 美しく
楽しく励む 三浜の子

三 潮のみなぎる 駿河湾
歴史を語る 宮の森
七つの海を 拓く子は
笑顔明るく たくましく
幸福築く 三浜の子

三浜小学校の沿革	
明治 7 年	伊浜：知格舎 子浦：成功館 妻良：牖輝館
昭和16年	三浜村立伊浜国民学校、三浜村立子浦国民学校、三浜村立妻良国民学校と校名改称
昭和22年	三浜村立伊浜小学校、三浜村立子浦小学校、三浜村立妻良小学校と校名改称
昭和30年	南賀6カ村（三浜村・三坂村・南上村・南中村・竹麻村・南崎村）が合併し、南伊豆町となる。南伊豆町立伊浜小学校、南伊豆町立子浦小学校、南伊豆町立妻良小学校と校名改称
昭和41年	3校（伊浜小・子浦小・妻良小）統合を教育委員会決議、南伊豆町立三浜小学校と校名改称、新校舎未完成のため妻良・子浦・伊浜の3教場に分かれて授業 ○南伊豆町立三浜小学校妻良教場 ○南伊豆町立三浜小学校子浦教場 ○南伊豆町立三浜小学校伊浜教場
昭和42年	新校舎落成、校章制定、校歌制定。妻良教場、子浦教場閉鎖。本校と伊浜教場の2か所で授業を行う。妻良・立岩・吉田・子浦・落居・一町田の児童は本校に通学。伊浜、天神原児童のみ通学路の関係上伊浜教場にて授業
昭和44年	学区変更により天神原地区の児童は南上小学校へ通学となる。
昭和48年	伊浜教場廃止、伊浜教場の全員が三浜小学校にて授業開始
昭和55年 ～56年	文部省「へき地教育」研究指定校に確定される。
昭和57年	運動場拡張
平成11年 ～12年	静岡県教育委員会・南伊豆町教育委員会指定「ドリームスクール推進校」に指定される。
平成14年	校舎改築に伴いプレハブ校舎（子浦791番）に移転（平成16年3月まで）
平成16年	新校舎・屋内運動場の落成に伴い南伊豆町子浦1472番地に移転。3月15日から新校舎で授業開始
平成24年 ～25年	南伊豆教育員会・南伊豆研究発表会指定・研究発表会



旧妻良小学校



旧子浦小学校



旧伊浜小学校



旧三浜小学校



現在の三浜小学校



公共用地の管理について

◎公共用地とは

道路、河川などの直接公衆の使用に開放されている公物です。
それぞれ道路法や河川法などの法律に基づき国、県、町が管理しています。

公共用地の種類

- ・道路：国道、県道、町道
- ・河川：二級河川（県管理）、準用河川（町管理）
- ・管理法が定められていないもの
 - 法定外道路…道路法の適用を受けない道路（里道・赤道）（町管理）
 - 普通河川…河川法の適用を受けない河川（水路を含む。）（町管理）

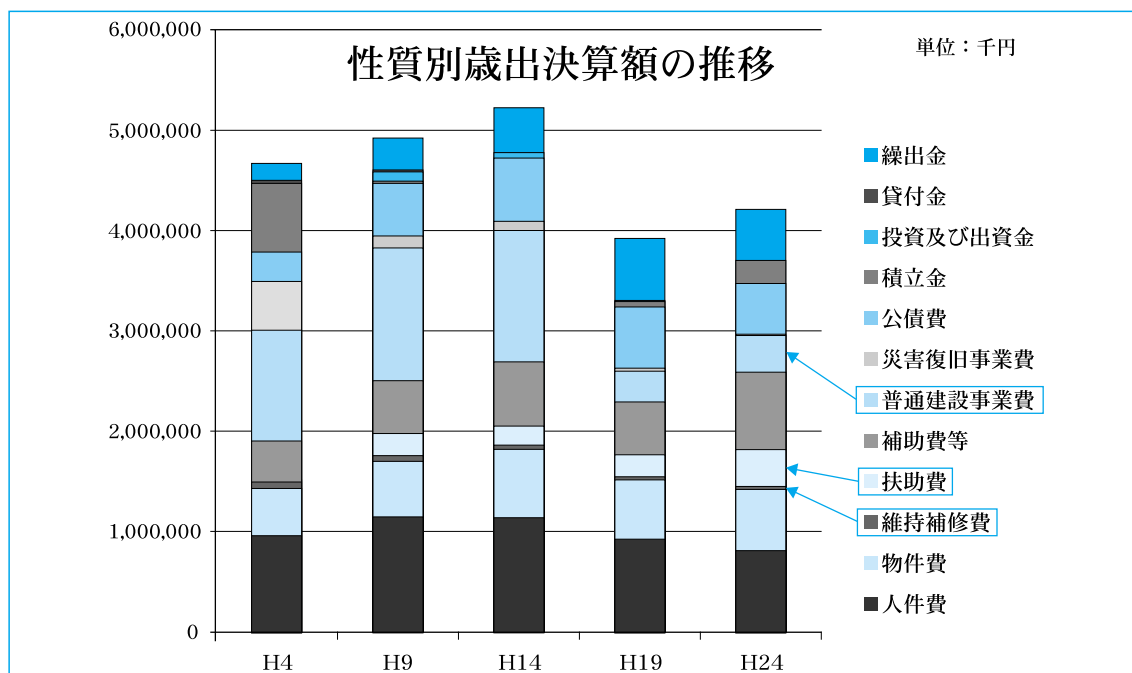
◎財政状況から見た建設・管理経費 ～厳しい財政状況～

建設・管理費用について

人口減少や高齢化、景気低迷等により歳入の増加も見込めないため、年々予算規模も縮小しています。一方、歳出は、高齢化の進展に伴い扶助費等社会保障経費（義務的経費）が増加しています。そのため、限られた財源の中でのやりくりが必要となっています。

こうした状況から、道路・橋りょう等の建設・改良経費である普通建設事業費（投資的経費）に使うことのできる額も限られてきており、平成24年度（368百万円）と平成4年度（1,112百万円）を比較すると約70%減少しています。

また、維持補修費も（31百万円）は平成4年度（56百万円）に比べ約45%減少しています。



町の借入残高について

一般会計の借入残高42億511万円のうち、道路・橋りょう関係は5億8,472万円と約14%を占めます。（平成25年3月31日現在）

借入は人口一人あたりに換算すると約46万円です。

（平成25年4月1日 住基人口 9,139人で計算）

道路・河川の新規事業について ～優先度付けによる実施～

平成25年度は次のような事業を実施しました。

- ・例1 認定こども園周辺の町道石井区内14号線の拡幅
- ・例2 通学児童の安全確保のために前原橋下流側に歩道新設
- ・例3 町道伊浜蛇石線の舗装・排水対策

◎公共用物管理の現状と課題について ～長寿命化～

高度成長期に作られた道路の舗装や橋りょうの老朽化が深刻です。
町では長寿命化計画を策定し、予防的な管理を平準化させて行うとともに、不具合が発覚したものについては、公共性や公益性、安全性を考慮した優先度に従い、管理・修繕を行っています。

平成25年度の主な管理費

路面・安全施設補修工事など1,665万円 ※うち生コン等原材料支給費 約100万円

しかし、前述のように厳しい財政状況や老朽化した施設の増加などから、維持管理においては皆様の生活への支障を最低限にするよう努めていますが、早急の対応が困難なものが発生しています。

特に、法定外道路や水路など小規模で公共性の低い施設については、その傾向が顕著となっています。

住民の皆さまへお願い

住民のみなさまに置かれましても、道路や河川、水路などについて、“草刈りなどの管理”や“原材料支給制度を活用した軽度な補修”にご協力をお願いします。

草刈（西子浦区）



どぶさらい（石廊崎区）



材料支給による施工（上小野区）



※平成25年度の原材料支給制度の実績写真。

皆さまありがとうございます。

建設課管理係 ☎ 62-6277

石廊崎ジャングルパーク跡地 利用計画策定ワークショップ通信

No. 4

問合せ 企画調整課

☎ 6 2 - 6 2 8 8 FAX 6 2 - 1 1 1 9

E-mail : kikakuc@town.minamizu.shizuoka.jp

第3回ワークショップで得られた石廊崎内外の良いところ、悪いところを掛け合わせて利用計画のアイデア出しを行いました。

利用計画のアイデア出し

内部 \ 外部	機 会	脅 威
強 み	強みを機会に活かす	脅威を強みで克服
弱 み	機会をとらえて対策	回避、防衛策

利用計画について、上記表のように「強みと機会を掛け合わせて最大限活用するための案」、「弱みと脅威から考えられる最悪の結果を回避するための案」といったように4つに分けてアイデアを出し合いました。



前回の復習



利用計画のアイデアをカードに書いて出し合っています。

面白い意見などは、参加者で深く掘り下げて盛り上がるグループもありました。

※左右の写真はグループ討議（アイデア出し）



■自然を活かした公園や、景観を活かした展望台を！

■16種類の食材から作る16(いろいろ)丼!?

■交通の不便さを解消するために交通網の整備が必要！

上に挙げたのはほんの一例で、様々な意見が飛び交っていました。

共通意見はお互いを補完し合い、個性的な意見には他にない魅力がありました。



グループ討議で出た意見

2/26ワークショップは基本構想案を考えていきます！

ワークショップも残すところあと3回となりました。佳境に入り盛り上がりを見せています。

次回（2/26）ワークショップでは、いよいよ基本構想案について考えていきます。

各グループでいくつか基本構想案を作り、ワークショップ全体でどの案が良いか議論します。

基本構想案を作るために第4回で出たアイデアを使いますが、追加で思いついたものを付け足すこともできます。

石廊崎ジャングルパーク跡地 利用計画策定ワークショップ通信

No.5

問合せ 企画調整課

☎62-6288 FAX62-1119

E-mail: kikakuc@town.minamizu.shizuoka.jp

第4回で話し合った活用案の人気投票を全体で行い、その結果を踏まえて各グループで基本構想案を考えていきました。

前半は活用案、キーワードの人気投票

前回の結果を下記写真のように一覧表にまとめ、良いと思う活用案とキーワードについて、一人5点ずつ投票しました。



人気のあった活用案・キーワード

- ・サンライズ、サンセット、星を楽しむ自然公園、キャンプ場
- ・大人も子供も遊べるハイキングコースと芝生広場を整備
- ・野外音楽施設 ・遊歩道
- ・吊り橋バンジージャンプ

後半はグループで議論

後半は、人気投票の結果を参考にしながら基本構想案について話し合いました。どこで何をするかなどを地図上に書き込み、「基本構想案」という1つのストーリーを作りました。

基本構想案の発表

- A 大人も子どもも楽しめる石廊崎
- B 絶景と歴史を堪能できる石廊崎
- C 石廊崎いろいろ公園
- D 先端（さきっちょ）の楽園～IROZAKI～
- E 石廊崎自然公園



特徴的な活用案

- ・誰でもなんにでも使える芝生広場
- ・海に向かって滑っていくジップライン
- ・斜面を活かしたグラススキー
- ・コミュニティバスの導入
- ・回転式展望レストランの整備



次回ワークショップは基本構想を作ります！

次回（3/11）ワークショップでは、出揃った5グループの案を1つにまとめ「基本構想」を作ります。なお、石廊崎区では、区民の生の声を反映させるため、「石廊崎区民のワークショップ」を行っています。この意見を採り入れることで、より現実的な話し合いができると思います。

石廊崎ジャングルパーク跡地 利用計画策定ワークショップ通信

No. 6

問合せ 企画調整課

☎ 6 2 - 6 2 8 8 FAX 6 2 - 1 1 1 9

E-mail: kikakuc@town.minamitsu.shizuoka.jp

第5回の各グループの利用計画案から事前にたたかれ台（全体としての仮利用計画）を作成し、それについてグループ討議をしました。その後全体討議をして一つの形にまとめていきました。

前半はグループ討議

たたかれ台について、加えたいアイデアや表現方法の変更等をグループで話し合いました。



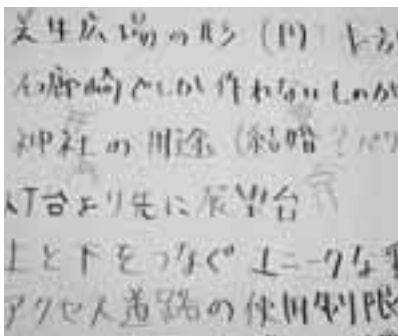
ワークショップのメンバーの方が石廊崎B級グルメの試作品として『イカ石廊いか如何でしょうか?』という名の石廊イカを使った16種類の料理を作ってきてくれました!!

休憩時間や絵ワークショップ終了後メンバーの方々と美味しくいただきました。



後半は全体討議

後半は、全体討議をして前半のグループ案をまとめる話し合いをしました。
各グループの共通点を探したり、賛成アイデアや反対アイデアなどの重要な意見討議となりました。



全体討議の内容

- ・芝生広場の形
- ・神社のあり方（パワースポット?）
- ・景観整備
- ・アクセス道路の使用制限
- ・上の駐車場（必要? 不必要?）
- ・白水城とブンドグラ
- ・展望台の場所

など

次回ワークショップは最終回!!

次回（3/25）ワークショップはついに最終回です!!
今までの内容をまとめ、当日のワークショップにて直接町長へ提言書を提出します。

3/1～2 菜の花ツデーマーチ



早春の南伊豆を楽しみながら歩く参加者ら

第14回菜の花ツデーマーチが1日、2日の2日間で行われ、全国各地から549人が参加しました。参加者らは、桜や菜の花など一足早い春を感じながら完歩を目指しました。

3/4 台湾から旅行会社招聘



台湾エージェントと民宿関係者との意見交換会

3泊4日で巡る伊豆半島魅力再発見の旅と題して12社の台湾エージェントを招聘したファムトリップ（現地に招いて下見を目的とする旅行）が行われました。民宿関係者との意見交換会や商談会等が町内で行われました。

3/12 防災力強化セミナー



賀茂地域防災力強化セミナーの様子

賀茂危機管理局と町が共催した賀茂地域防災力強化セミナーが役場湯けむりホールで開催され、各地区区長や自主防災会など約150人が参加し、防災意識の高揚を図りました。

3/4 春を迎えてコモ外し



コモ外し作業をする作業員ら

12月に奥石廊崎の県道沿いにある50本のヤシに掛けたコモを、春の訪れに合わせコモを外す作業が行われました。作業員らは、春を感じながら作業を行っていました。

3/7 津波避難タワー竣工式



完成した避難タワーを見学する関係者ら

湊地区に賀茂地区で初の津波避難タワーが完成し、関係者らが参加し竣工式が行われました。地域住民だけでなく観光客も視野に入れ、高さ12m、1,000人収容の施設となっています。

3/13 社会福祉貢献活動



ヤクルトレディーから目録を受けとる梅本町長

社会福祉貢献活動として東静岡ヤクルト販売株式会社から町内の社会福祉施設3施設へ1,005本(42,210円相当)のヤクルト商品の寄贈を梅本町長が受けました。

図書館だより

今月のおすすめ



「生きる力、絵本の力」
柳田邦男著/岩波書店
心の危機、人生の危機に直面した時、絵本によって生き直す力を取り戻した人々のエピソードに寄り添いながら、絵本の秘められた可能性を語る。



「日本橋本石町やさぐれ長屋」
宇江佐真理著/講談社
“やさぐれ長屋”の様々な事情を抱えた住人。お互いお節介をやきながら助け合う長屋の人々の毎日は、あつという間に過ぎていく。



「わたしはマララ」
ユスザイ・マララ著/学研パブリッシング
「すべての子どもに教育を」と訴え、イスラム武装勢力に銃撃された16歳の少女・マララの手記。テロリズムによって生活が一変した家族の物語。



「舞台」
西加奈子著/講談社
生きているだけで恥ずかしい。思い切り笑い、最後にはきっと泣いてしまう。自意識過剰な青年の馬鹿馬鹿しくも切ない魂のドラマ！



「夫婦の断捨離」
やましたひでこ著/すばる舎
「溜め派」VS「捨て派」がおりなすパートナーシップ。果たして平和と安らぎの日々は訪れるのか？モノ・ヒト・コトとの関係を見つめ直す！



「連写」
今野敏著/朝日新聞出版
東京都内でバイクを利用したコンビニ強盗が連続発生。J警視庁に新設された1T捜査専門組織も総動員されるが、解決の糸口が見つからない…。



「金遣いの王道」
林望・岡本和久著
育ち方がおカネの遣い方に現れる瞬間、「貯める」と「増やす」は分けて考える。60歳を過ぎたら「減蓄」するべし…ヒントや蘊蓄が満載！



「海と月の迷路」
大沢在昌著/毎日新聞出版
わずかな土地に五千人がひしめく炭鉱の島。満月の夜に不審な死を遂げた少女。しきたりや掟に支配された島で警察の正義は守られるのか。



「3歳までの子育てに大切な5つのこと」
佐々木正美著/講談社
遠くから見守る、ほほ笑みを返す、泣いたらあやす、できるまで待つ、いっしょに遊ぶ。たった「5つのこと」を心がけるだけの子育てレッスン。



「渡良瀬」
佐伯一麦著/岩波書店
茨城県西部の町にある配電盤製造の工業団地。28歳の南條拓は妻と3人の幼子連れ、東京での電気工としてのキャリアを捨てここで働き始めた。

一新着図書案内

哲学図鑑	大城信哉
人生はニャンとかなる！	水野敬也
中国共産党3年以内に崩壊する!?	宮崎正弘
知の武装	手嶋龍一
55歳からの「一生モノ」入門 朝日新聞「55プラス」取材班	
障害のある子の親である私たち	福井公子
片づけの解剖図鑑	鈴木信弘
作りおきそうざい	主婦の友社
植物を楽しむインテリアのルール	成美堂出版編集部
ザ・タイガース	磯前順一
黒船の来た街で	山本高志
神様の休日	岡本貴也
ナーダという名の少女	角野栄子
怒り(上下)	吉田修一
アルモニカ・ディアボリカ	皆川博子

皆様からのリクエストをお待ちしています！

「大西みつぐさんの“河口の町”という写真集を見たいのですがありますか？」調べてみたところ1985年「太陽賞」を受賞した作品でした。早速、県立中央図書館からその時の雑誌“月刊太陽”を借り受け利用していただきました。また、“自分を思うままに動かす”という本を読みたいという依頼がありました。1975年の発行ということですのですでに絶版、県内のどの図書館にも所蔵が無く、長崎県立長崎図書館から借りて利用していただきました。このように全国の公立図書館と繋がっています。皆さまの読みたい本、調べたい事柄を図書館を利用してぜひ解決して下さい。

開館時間 8:30～17:15
休館日 月曜日・木曜日・祝日
☎62-7100 FAX 62-1402

健康レシピ

厚揚げきのこあんかけ



ここがポイント！

- ・だしとしょうがを効かせることで、薄味でもおいしく食べられます！

な ず み かい
南豆味会(健康づくり食生活推進協議会)

問合せ 健康福祉課 ☎ 6 2 - 6 2 3 3

▷ 材料／4人分 ◁ (1人分エネルギー123kcal、塩分0.4g)

厚揚げ ……………120 g	A	だし汁 ……………200ml
しめじ……………50 g		しょうゆ…小さじ1
なめこ……………30 g		酒……………小さじ1
パプリカ……………20 g		みりん……………小さじ1
しょうが(千切り) ……1/2片分		片栗粉…大さじ2/3
しょうが(おろし)……………小2		細ねぎ……………少々

▷ 作り方 ◁

- ①厚揚げはトースターでこんがりと焼く。食べやすい大きさに切って、器に盛る。
- ②しめじは石づきを取ってほぐし、なめこは水でさっと洗う。パプリカは千切りにする。
- ③鍋にAを入れて煮立て、千切りにしたしょうがと2を加えて2～3分煮る。
- ④きのこに火が通ったらおろしたしょうがを加えて火を止め、倍量の水で溶いた片栗粉を加えてとろみをつける。
- ⑤4を1にかけ、小口切りにした細ねぎを散らす。

「ふるさと納税」ありがとうございました！

みなさまからの貴重なご篤志に応えるため、大切に使います

平成20年8月11日にスタートした南伊豆町「ふるさと納税」制度について、12月の成果をお知らせします。

また、皆さまからいただきました寄附金は、「南伊豆町ふるさと応援基金」として積み立てさせていただきました。

氏 名	住 所	氏 名	住 所	氏 名	住 所
村瀬 秀 行 様	北海道旭川市	溝 口 久 様	静岡県浜松市	井 口 浩 様	東 京 都
石 川 誠 二 様	東京都目黒区	大 高 功 様	静岡県伊豆市	久保木昌吉 様	東 京 都
小 山 準 一 様	北海道札幌市	富 岡 弘 毅 様	神奈川県横浜市	古 山 英 夫 様	福 島 県
野 本 哲 嗣 様	福岡県福岡市	山 本 智 幸 様	東京都足立区	松 原 牧 子 様	愛 知 県
西 江 里 花 様	埼玉県和光市	工 藤 敏 晃 様	東 京 都	古 澤 秀 和 様	神 奈 川 県
山 田 智 重 様	神奈川県横浜市	坂田富美子 様	東 京 都	潮 田 周 作 様	大 阪 府
上 杉 敦 子 様	東京都府中市	高 橋 亘 人 様	東 京 都	松 山 剛 様	千 葉 県
寺 崎 道 弥 様	東京都杉並区	塚 原 正 行 様	東 京 都	吉 田 實 様	宮 城 県
大 野 拓 哉 様	千葉県市川市	井口マサ子 様	東 京 都	熊 井 洋 介 様	埼 玉 県
福 録 潤 様	大阪府豊中市	合計183人（うち匿名155人） 寄附金額 1,561,000円			
● 寄附金額累計 10,241,000円(平成25年12月31日現在)					

問合せ 企画調整課 ☎ 6 2 - 6 2 8 8

お知らせ

きらりと光るまちづくり事業支援補助金 交付事業の公募について

町では、「協働のまちづくり」の一環として、平成26年度に地域振興、産業の活性化、社会福祉の向上等を目的とした公益的な事業を主催する住民団体に対して補助金（事業費の1/2以内、上限50万円）を交付します。

対象となる団体 次のすべてに該当する団体

- ①団体の代表者が本町の住民であること。
- ②団体構成員の3分の2以上の方が、本町に居住していること。
- ③団体の活動拠点が町内にあり、かつ、町内において継続的に活動を行っていること。
- ④営利団体でないこと。
- ⑤特定の政党もしくは政治団体または宗教等を支持する団体でないこと。

応募方法

補助金交付要望書（町のホームページまたは総務課で配布）に必要な書類を添付して総務課に提出してください。

提出期限 5月9日（金） **問合せ** 総務課 ☎62-6211

*本事業に関する説明会を以下のとおり開催します。

日時 4月25日（金） 10:00～ **場所** 役場1階 多目的ホール

東日本大震災義援金について

平成23年3月11日に発災した東日本大震災にて甚大な被害を受けた被災地並びに、被災者に対して、17,175,137円（3月13日現在）もの義援金をいただき誠にありがとうございました。

なお、平成27年3月31日まで義援金の募集を延長しますので、引き続き、皆様のご協力をお願いします。

問合せ 健康福祉課

☎62-6233

銀の湯会館・みなと湯 メンテナンス休館日

銀の湯会館およびみなと湯は、機械等のメンテナンスのため、下記のとおり臨時休館します。

大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。

臨時休館日

銀の湯会館

4月15日（火）～18日（金）

問合せ

銀の湯会館 ☎63-0026

侵入盗多発中!! 必ずカギかけ!!

下田警察署管内で昨年発生した空き巣（日中家の人がいないときに入る泥棒）・忍込み（夜間、家の人が寝ているときに入る泥棒）は合計21件で、約7割がカギをかけていなかったために被害に遭ってしまいました。

今年に入ってから2月末までに忍込みが6件（前年比+6件）発生しており、増加傾向にあります（速報値）また、閉店後の店舗や終業後の事務所などを狙った泥棒も管内で連続発生しています。

～被害に遭わないための対策～

泥棒は、音・光・人の目が大嫌いです。

○出かける時はもちろん、入浴中や寝る時など、在宅中でも必ずカギをかける。

○庭に砂利を敷いたり、玄関にセンサーライトや防犯装置を付けるなど泥棒が侵入しにくい環境を作る。

○泥棒は近所の人に声をかけられると犯行をあきらめることが多いので、普段見かけない人がいたら「こんにちは」「どちらかお探しですか」などと地域ぐるみで声をかけましょう。

問合せ 下田警察署管内防犯協会

☎27-2766

南伊豆町宣伝部長

「いろう男爵」



町内の空き家物件を募集しています。「売りたい・貸したい」という所有者の方は、お気軽にご連絡ください。

問合せ 企画調整課 ☎62-6288

電気自動車 急速充電器完成

〇道の駅電気自動車充電施設

道の駅下賀茂温泉湯の花敷地内に、電気自動車急速充電施設が完成しました。こちらの施設は、24時間無料で使用することが可能で、道の駅という立地から、観光等で訪れた際に、昼夜問わず好きな時に利用することができます。

なお、車の充電残量30%から80%まで充電をした場合の充電時間は、約30分です。

さらに、太陽光発電システムと蓄電ユニットを組み合わせたことにより、夜間の電力も賄うことができ、停電時でも、電源の確保ができるため、災害等の場合は、道の駅を防災拠点としても利用することが可能となります。

詳細については、下記のとおりです。

場 所：道の駅下賀茂温泉湯の花敷地内 **利用時間：**24時間使用可能
利用料金：無料

仕 様：急速充電器 1口 30Kw
太陽光発電システム 3.3Kw
蓄電ユニット 7.2kWh



問合せ 観光協会 ☎62-0141
産業観光課 ☎62-6300



姉妹都市だより 長野県塩尻市

塩尻醸造所(仮)

塩尻市では、平成25年6月、東京都渋谷区に、塩尻ワインや木曾漆器などの塩尻ブランドの発信拠点となるワインバーをオープンしました。今回、この店舗をさらにパワーアップし、「塩尻醸造所(仮)」としてリニューアルしました。お店では、塩尻産のワインや日本酒、地ビールが味わえるほか、旬の塩尻産食材を発酵料理と組み合わせることで塩尻の魅力を引き出したメニューを提供しています。東京にお出かけの際は、ぜひお立ち寄りください。

【店舗情報】

塩尻醸造所(仮)
東京都渋谷区富ヶ谷1-45-13
シズナビル1階

営業時間

17:00~23:00(水曜定休)

☎03-6407-2362

☎塩尻市ブランド観光課

☎0263-52-0280



赤ちゃん誕生おめでとう

地区	赤ちゃんの名前	誕生日	父・母
岩殿	原田 柊 依	1.17	寛・景子
石井	木下 怜 音	1.31	勘也・典子
手石	土屋 海 維	2.11	秀作・友美

お悔やみ申し上げます

地区	氏 名	年齢	月 日
青市	高 橋 繁	88	1.31
市之瀬	鈴 木 雅 子	36	2.2
伊浜	山田まさ子	97	2.2
下賀茂	山田 静 彦	81	2.3
湊	若 松 晋	78	2.4
吉祥	渡 邊 軍 平	64	2.5
石井	鈴 木 は な	99	2.8
川合野	山田ふみゑ	91	2.10
湊	木 下 明	77	2.17
川合野	清水シゲノ	93	2.17
妻良	土 屋 キ ク	95	2.18
手石	坂倉しづみ	63	2.19
下小野	井 上 要 子	86	2.19
一條	高橋たけ子	96	2.23
落居	鎌 田 啓 介	83	2.26

平成26年2月1日から2月28日までに届出のあったもの(敬称略)

※このコーナーに掲載を望まない方は、戸籍届出の時に申し出ください。

人の動き

(3月1日現在)

世帯数 3,955世帯

人 口 9,016人(−17)

男 4,287人 女 4,729人

----- (2月中) -----

転 入 12 転 出 14

出 生 4 死 亡 19

3月には、固定資産税、国民年金保険料の納付月です。

※住民基本台帳法の改正(平成24年7月9日)により、外国人も含んでいます。



まちの人

地域に根ざした活動を！ 下田ライフセービングクラブ

南伊豆地区担当理事

中山 健太 さん

私たちは、弓ヶ浜海水浴場を中心に人命救助、海辺の安全の啓蒙、海岸の清掃などの活動をしています。大学に入り何か一つ必死になってやってみようと思い、ライフセービング部に入部し、活動先を探して南伊豆町を訪れた際に、海のきれいに感激し、この地で活動しようと思ったのが始まりです。

普段は県外で会社員をしているので、休日に南伊豆町に訪れ活動をしています。

ライフガードは、夏だけの活動と思われがちですが、冬でも訓練のため海に入ったり、マラソン大会

やOWS大会など町のイベントにもライフガードや選手として積極的に参加して大会を盛り上げ、一年を通じて活動しております。

このたび、クラブ20周年を迎えましたが、こうして活動が続けられるのは地域の皆様の支えがあってのことです。お陰様で子供の頃から南伊豆町に海水浴にきていたという仲間も増えてきました。

これからもきれいで安全な海水浴場を提供し、多くの方に海で楽しい思い出を作っていただければと思います。

健康一口メモ

胃がん・肺がん検診を受けましょう！

胃がんは、日本人で罹患が最も多いがんで、塩分の摂りすぎなどの食生活が関係しています。しかし、胃がんは治りやすいがんでもあり、早期に発見するほど完治しやすくなります。

肺がんは、死亡率1位のがんで、タバコが最大の原因です。有効な治療法が少なく転移しやすいため、早期に発見して対処することが重要です。

どちらにしても自覚症状が少ないのが落とし穴。辛くなってからの受診では、手遅れになってしまうことが少なくありません。

町では4月に、胃がん検診（35歳以上）、肺がん検診（40歳以上）を実施します。（詳細は広報3月号に掲載）

年に一度は受診して早期発見に努めましょう！

問合せ 健康福祉課 ☎62-6233

スマイルキッズ



加納 山本 朋花^{ともか} ちゃん（1歳6か月）

「ひとりでくつをはくことにはまり中！
うたとおどりもだ～いすき！！」

広報みなみいず 4月号

発行日／平成26年4月1日

発行／南伊豆町 編集／企画調整課 印刷／㈲サン印刷

〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1

TEL 0558-62-6288 FAX 0558-62-1119

ホームページ

<http://www.town.minamizu.shizuoka.jp/>

編集後記

4月を迎え、入学や就職など新しい環境での生活が始まる方も多いと思います。

心も体もリフレッシュして、気持ちを新たに頑張っていきましょう。

だ

広報みなみいずは、再生紙を利用しています。